

令和4年度 第1回 長野県食と農業農村振興審議会 木曾地区部会 議事録

令和4年7月26日(火) 午後1時30分から、木曾合同庁舎講堂において令和4年度長野県食と農業農村振興審議会 木曾地区部会を開催しました。

1 出席委員 五十音順 (敬称略)

大久保和典 委員 木祖村西山地区活動組織代表
黒内 拓美 委員 和牛繁殖・肥育一貫経営 (先進農家)
塩澤 郷子 委員 ふるさと体験館 きそふくしま職員
志水 敏春 委員 木曾農業協同組合野菜生産部会
戸前 寿乃 委員 木曾広域連合 (移住定住担当)
田屋 万芳 委員 木曾農業協同組合代表理事組合長
富井 聡美 委員 女性農業委員 (消費者)
二宮 美香 委員 加工施設 (元地域おこし協力隊員)
野口 廣子 委員 長野県農村生活マイスター木曾支部長

2 次第及び議事録

(1) 開 会

(2) 神事 正實 木曾地域振興局長 あいさつ

(3) 部会長選出

部会長 田屋 万芳 委員 木曾農業協同組合代表理事組合長

(4) 会議事項 (議長 田屋 万芳)

【田屋部会長あいさつ】

・農業を取り巻く情勢は、担い手の減少や高齢化の進行、荒廃農地対策といった従来からの構造的な課題に加え、経済のグローバル化の進展、スマート農業の導入、みどりの食料システム戦略など新しい動きが出てきている。木曾を代表する伝統野菜の御嶽はくさいの出荷が6月下旬から始まっている。しかしながら、生産者も、生産量も減少してきてしまっている。ウクライナ情勢により食料の需給バランスが崩れた結果、燃料、肥料等も含め物価が高騰してきている。農業の本来の姿、自国の食料自給率の向上の重要さが見直されてきている。長野県食と農業農村振興計画の第3期5ヶ年計画の最終年になり、計画の進捗状況と令和5年からの第4期の計画の骨子案および木曾地域の地区別の振興計画について委員の皆様のご意見を伺いたい。

〔令和3年度取組実績及び4年度実行計画 (資料1)〕 説明：太田係長 福島補佐

【砂場所長】

・昨年エコファーマーの新規認定者が久しぶりに2名(P4について)。
・木曾では専業の新規就農は難しいので、主婦や定年退職者など自給的にやっていた方たちに出荷するぐらいまでになってもらうため、入門講座を開いている。昨年までは農協の圃場を借りていたが、今年は野口委員の圃場を借りて支援していただき、10名ほどが受講する。(P7について補足)

〔質問等なし〕

〔次期長野県食と農業農村振興計画骨子案 (資料2)〕 説明：太田係長

【志水委員】

・この3年間で御嶽はくさい再構築計画で農村支援センターを通じていろいろな情報をいただいた。昨年一昨年と御嶽はくさいが炭疽病等で大変厳しいときがあったが、いただいた情報や、研修会等で生産者も一生懸命勉強させていただいた。今年も天候が良かったとは言えないが、農協に出荷した御嶽はくさい

いについてはクレームがなかった。研修会等のおかげもあるし、生産者の「御嶽はくさいを何とかしよう、いいものを市場に届けよう」という気持ちが結果に繋がっていると思う。これからもいろいろ情報をいただきたい。

・アシストスーツを5年ぐらい前から農村支援センターから情報をいただいて、開田や木祖村で何人か購入して使用している。長い目で見れば、体のためには良いだろうと聞いている。日々改良されるだろうし、安価なものが出てくると思うので、引き続き情報をいただきたい。

【黒内委員】

・畜産は大変厳しい状況。このままだとどこまでもつか。配合飼料は60円だったのが90円台の1.5倍くらいになっている。輸入牧草に至っては60円が100円になるのではという状況。自給飼料を作ればいいが、機械も400万円台の機械が800万円。壊れたときに部品がない、燃料も高い。この状況がいつまで続くのか、皆将来的な不安を感じている。新しいことを始めるより、現状維持で精一杯だと思う。餌も7月に1万円ほど値上がりした。飼料安定基金の積立もしているが、円安とウクライナの影響が収まるのを願っている。厳しい状況だが、2年ほど前に新規就農した方もいるので、周りで手助けして協力してやっていければと思う。その当時に牛舎を建てられて良かった。今は倍の費用が掛かる。今を耐えて何とか残ればと思う。

【志水委員】

・多面的機能で開田の小西地区は水路等を直してもらえてありがたいが、本流の取り入れ口も直したい。災害にも繋がると思うので、制度を緩和してもらえないか。

【農地整備・福島補佐】

・災害復旧で護岸等と一緒に直せるレベルであれば可能性はあるが、何も無いところに造るのはハードルが高い。

【志水委員】

・取り入れがないと用水が利用出来ず、田んぼを守っていけない。建設の方にも話をしてもらえれば。

【福島補佐】

・令和3年は災害が多く発生し、河川許可について維持管理課と調整を行った。既得権(慣行水利権)の場合はいいが、そうでない場合は河川許可に時間がかかる。

【志水委員】

・取り入れが壊れてしまい役場に頼んで何とか一箇所は直してもらった。もう少し緩和してもらえれば田んぼを続けてもらえるのではないかな。

【田屋部会長】

・肥料等のコストが上がっても、生産者は野菜や牛に値段を転嫁できない。高齢化もあり、農業をやめようかという話が危惧される。飼料の高騰等については基金で対応もできるが、国からの補助等も考えていただきたい。肥料については来年春季に70%の補填があるが、条件があり、土壌診断と化学肥料を20%削減しなければならない。土壌診断は費用も時間もかかるので、もう少し議論をとJAから国会議員にお願いしている。

【野口委員】

・農業入門講座をやっているがなかなか生産者に結びつかない。農協がやっている品目別の講習会にも参加してもらい、生産に繋げていけたらいい。私も道の駅に出荷しているが、道の駅も経営があり、市場からの仕入れに頼ってしまう。道の駅と地元生産者と支援センターの話し合いの場を設けて、その時期に必要な野菜を生産し、道の駅で販売できたらいい。入門講座の参加者に出荷者になってもらえる技

術的な支援をお願いしたい。

【田屋部会長】

・JA の広報誌で栽培方法を載せたり、現地で講習会もしているのでぜひ参加していただきたい。黄南蛮は珍しいとのことでよい値段で売れた。モロッコインゲンも曲がっていてもいいし、少量のミニトマトでも出荷してもらい、誰でも農業の楽しさを知ってもらえたらいい。

[地域別振興計画 (資料3)] 説明：太田係長 福島補佐

【砂場所長】

・第4期のタイトル「伝統とイノベーションを融合した木曾農業の発展」について。木曾のはくさい技術などの伝統を守ることと、イノベーション＝技術革新。トヨタのカイゼン技術法を用いたり、監視カメラを入れて牛の状態をスマホで確認するなどのイノベーション技術を広げていきたい。アシストスーツも試してもらえればと思う。

【田屋部会長】

・次回の9月26日までには達成指数の目標数値を入れ、次期5か年計画としていきたい。

【志水委員】

・新規就農者がいないと木曾の農地は守れない。県内で新規就農者は何人いるか。支援センター、町村、JA、生産者それぞれの立場で新規就農者を迎える準備をしているが、何が木曾に足りないのか。

【塩澤委員】

・ふるさと体験館でえごま、赤かぶ、そばを作っているが維持していくの大変。若い人に就農してもらうには新たな視点が必要ではないか。40代くらいの若い世代が集まって木曾の農業について話し合う機会があるとよいし、木曾の農業を発信する場を県に支えてほしい。

木曾に20年住んでいて木曾で農業のある暮らしは楽しいが、田んぼや畑に出るのが苦しいことも多々ある。農地管理にも費用が掛かるがボランティアになっているので支援があるといい。

赤かぶも漬物にするには限界かなと思うので、レストランなど新たな売り場への発信を考えてもらいたい。

【黒内委員】

・若い人にやってもらうには生活が成り立たないといけない。畜産の場合は親元継承してもらえれば続けられるかと思うが、もうからなくてやめてしまう農家もある。親元継承し規模拡大してやる人も増えてきたが、新規だと機械設備に掛かるし牛も高いので厳しい。規模拡大すると大型機械が必要になるが、農地が整備されていないと大型は使えない。木曾の専業農家は白菜と牛だけか。

【砂場所長】

・他は小規模だがイチゴや花や水稻など。

【黒内委員】

・親の基盤がある親元継承を進めていくのも大事かと。これ以上減らさない。

【大久保委員】

・木曾地域のような山間地の農業は地権者に特化している。新規で始めるには農地も機械も必要なので体一つでいきなりできる商売ではないのでそういった支援があつてできる産業。実際に初めてから儲かるまでの支援が必要。大雨災害等の対処も知識がある人の支援がいる。

【塩澤委員】

・えごまや赤かぶの栽培方法を勉強したいので支援してもらいたい。木曾地域は他地域より栽培期間が短い。木曾独自の栽培本（野菜図鑑）があるといい。木曾の農業が続いていくきっかけづくりになれば。

【志水委員】

・70年近く続く木曾の伝統野菜の御嶽はくさいをこれからも引き継いでいきたい。県、JA、町村ひとつになって情報を共有し今後も守っていききたい。お力添えをお願いしたい。

【野口委員】

・私たちの仕事は伝統野菜を作っていくこと。私は親から受け継いだけど、受け継げない人もたくさんいるので技術支援の場があれば守っていける。

【二宮委員】

・協力隊のころから地元のお母さんたちが立ち上げた加工所のお手伝いをさせていただいている。その後もえごまの栽培や赤かぶ漬けで自給的農家として暮らしている。木工をやっている夫の手伝いをしつつ、自分の活動として農業と縫物をやっている。移住者や協力隊で農業をやろうと思っている人は何か仕事をしつつ、自分たちの食べる分ぐらいはと農業をしたい。(半農半X)しかし、どこで農地を借りたらいいかも分からないので、地域に溶け込むためにもアドバイスをしてあげたらいい。加工所で5年くらいお手伝いしているが、自分より年下は入ってこない。高齢化や担い手不足の問題はあるが、木曾の食文化は残していかなければならない。「伝統野菜カード」は人気があり、加工所にもらいに来る人がいる。伝統野菜は興味ある分野だと思うので誇りをもって繋げていけたらと思う。木曾の料理家の方と赤かぶ料理を作り写真を撮って SNS に上げたら問い合わせがあった。3、40代の若い感性で発信すれば木曾以外にも広がると思うので、センターで支援していただけたらと思う。

【富井委員】

・農業委員会で、農業に興味のある人を地域おこし協力隊として募集したらという話があったが、農業振興を挙げてくれる人はなかなかいない。元協力隊で、王滝にそのまま家族と住み、利用権設定した圃場で農業をやっている40代の女性がいる。栽培方法が私と違ってびっくりするところもあるが、結構収穫している。私も気づかされたり、刺激になっている。農業委員会でも支援していこうという話になった。王滝村は山間地で農地も狭いが遊休農地の利用権設定を進めていきたい。

【戸前委員】

・移住定住セミナーや問い合わせで、若い方も定年前の方も何かをしたいと思っている。農業に関する相談を受けることもあるが、木曾地域で出来るのが白菜と子牛とその他少数のものとなると自分がやりたいこととのミスマッチが出てしまう。若い世代の担い手となると、新規でやるより親から引き継いでの方が入りやすいのかなと思う。子供のころから身近で知識があれば抵抗感がないかなと。小中高生のうちに、夏休みの野菜収穫体験などの農業を学ぶ機会があるといいのではではないか。高校生ならアルバイトで農業の仕事をする。農大があるので就職先の選択肢としてアピールするのも大事では。外から見えないと入ってこれないので、どれだけ中からオープンにできるかが移住やUターンでは大きなきっかけになる。

【田屋部会長】

・様々な意見が出たので、事務局でまとめて会へ報告したいと思う。農業で生活していけるかが問題となる。麦、大豆、飼料用の稲を作った場合の補助金（水田活用の直接支払交付金）等の木曾郡農業再生協議会事務局をJAが担っているが、農地も農家も減ってきているので額は減ってきている。農業振興ということで今以上に増やしていければいいが、現状維持で守っている人たちを評価してもらいたい。生活が成り立つように資材等の値上がり分を国や政府が補填してくれたらいいが。私どもは37%の自給率だが100%の国もある。自分たちで作ったものを美味しく安心して食べられるよう、農業の面白さ、

楽しさを皆さんの立場でPRしてもらえればと思う。

・みどりの食料システム戦略もあるので5年間での計画で木曾の農業も頑張っていると示せればと思うので、事務局の配慮をお願いしたい。

【大久保委員】

・木祖村で農業をやってもらえる協力隊を今年採用した。白菜、そば、畜産を手伝ってもらい、自分でも畑を始めた。全然農業を知らない人だが始めたばかり。

【黒内委員】

・法人ばかりに補助を出すのではなく、小さな規模で農業をやっている人にも援助してもらえる政策があればいいと思うが。木曾は空気や水が綺麗なせいか、もろこしでも何でもおいしい。寒暖の差があるからかも。

【志水委員】

・農地情報支援センターみたいなものがあると面白いと思うが。高齢になって農地を使えないから誰かに使ってもらえるよう、やり取りしてもらおう組織があれば。農村支援センターに押し付けるわけではないが、農地の引継ぎがうまくいくのではないか。農業委員会の仕事でもあるが、木曾地域全体をまとめる組織。貸し借りの希望がその地域にあるとは限らないし。かと言って企業が入ってくるのも問題があると思うし。中間管理機構も借り手がいないとなかなか厳しい。

【野口委員】

・農地が荒れてしまう前に次の人に耕作してもらうのが大事。一度荒れてしまうとだれも手を付けられなくなる。

【大久保委員】

・木祖村で草地を地代無償にし、代わりに農地を管理してやるという方法が今年から始まった。

【富井委員】

・利用権設定して無償で借りられる。農地を使ってもらえるだけありがたい。

【志水委員】

・無償でも有償でも貸し手、借り手の情報を把握出来るころがあれば。農地バンクのような。使ってほしい土地の情報を出しておけば、この田畑ならと借りてくれる人がいるかもしれない。

【田屋部会長】

・農業は第一次産業、なけなしにしてしまうと二次産業、三次産業が成り立たない。皆さん、プライドを持って頑張っていたきたい。木曾は山林が95%、残り5%に住宅がありその中に農地もある。それを守っていくのは大変なこと。

【砂場所長】

・2020年の県の新規就農者は173人、45歳未満。木曾では昨年は3人。松本などはシャインマスカットやいちごなどそれほど大きな面積でなくても収入が見込める品目があるところは多い。木曾は新規就農相談自体が少ない。木曾は人口が2万人しかいないので、その中での3人は頑張っているのかなど。木祖村で白菜の新規就農者がいるが、白菜は広い農地も機械も必要で新規参入が難しい品目だが、町村、農協、支援センターで毎月会議を開いて指導ができています。数少ない相談者を、町村、農協、県で連携して重点的に指導していったらいい。木曾では専業農家だけでは難しいので、多様な担い手（移住者、テレワーク）の育成を皆で連携してお願いしたい。